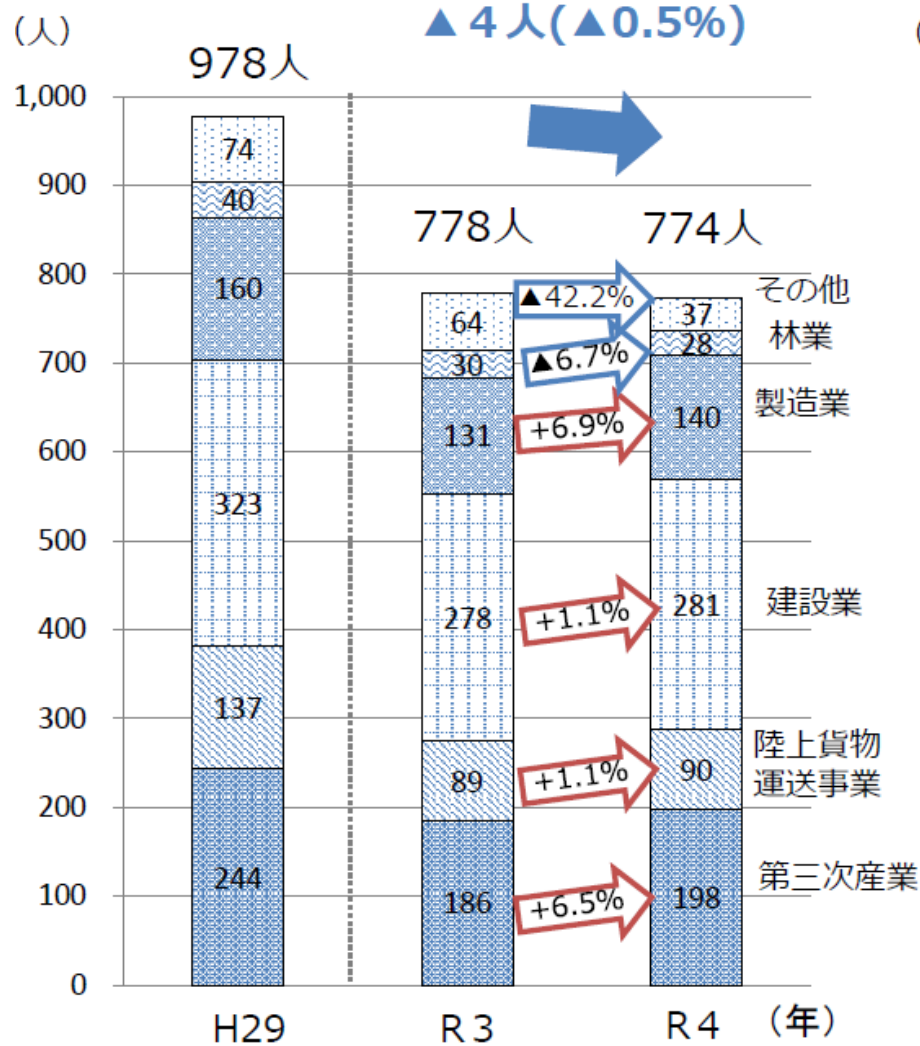


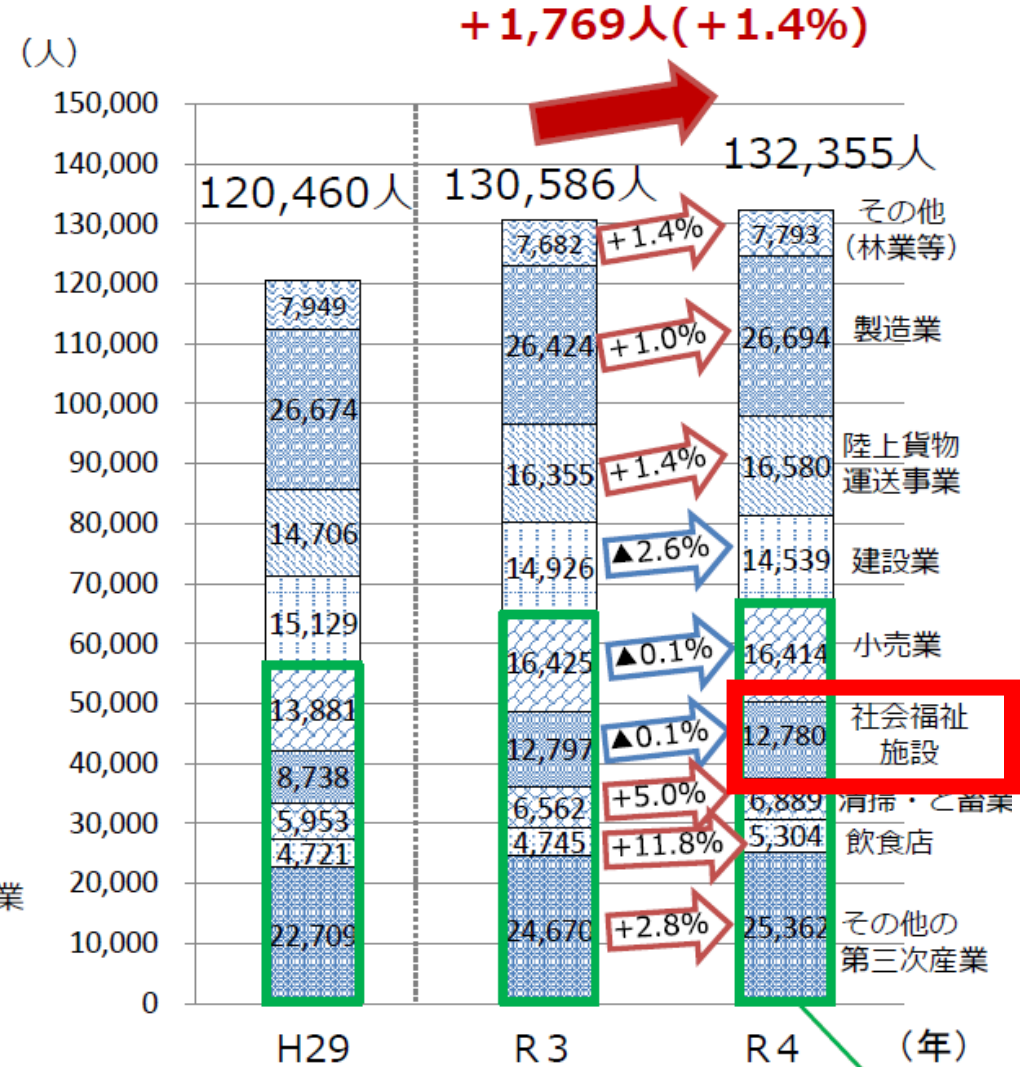
社会福祉施設における 労働災害の防止対策

令和4年 業種別労働災害発生状況（確定値）

死亡者数



休業4日以上の死傷者数

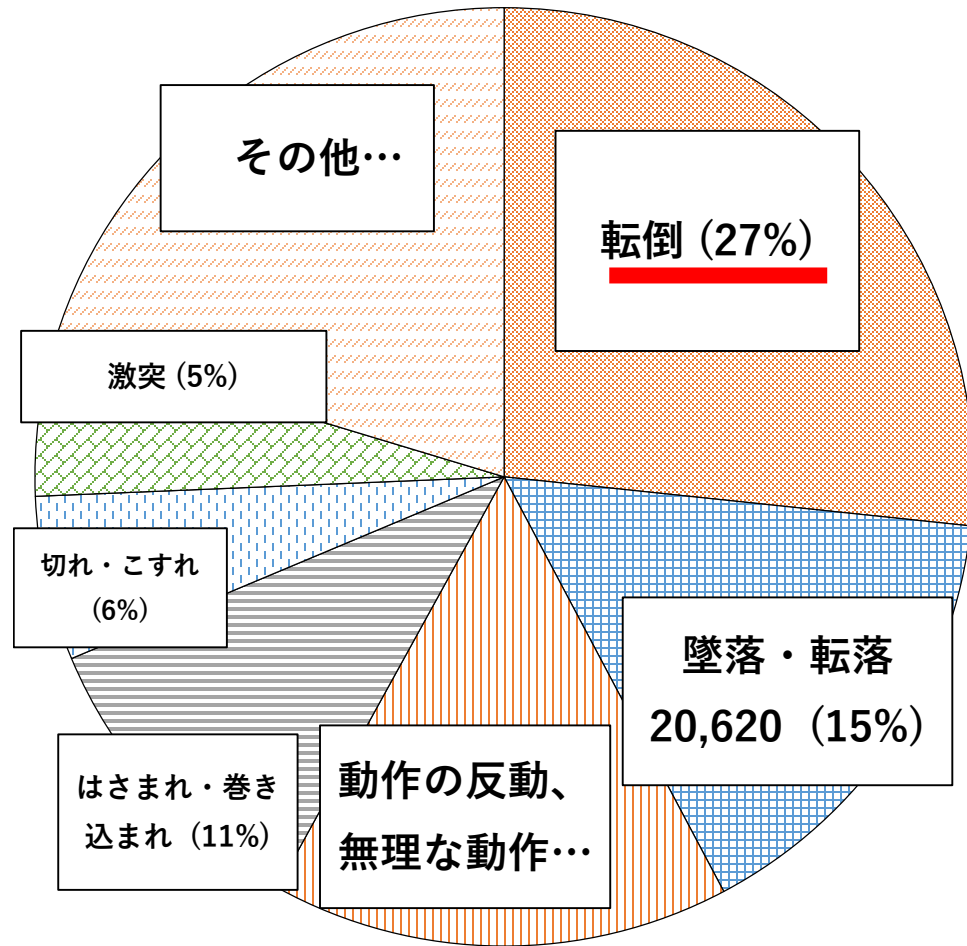


新型コロナウイルス感染による労働災害は除く

令和4年 事故の型別労働災害発生状況（確定値）

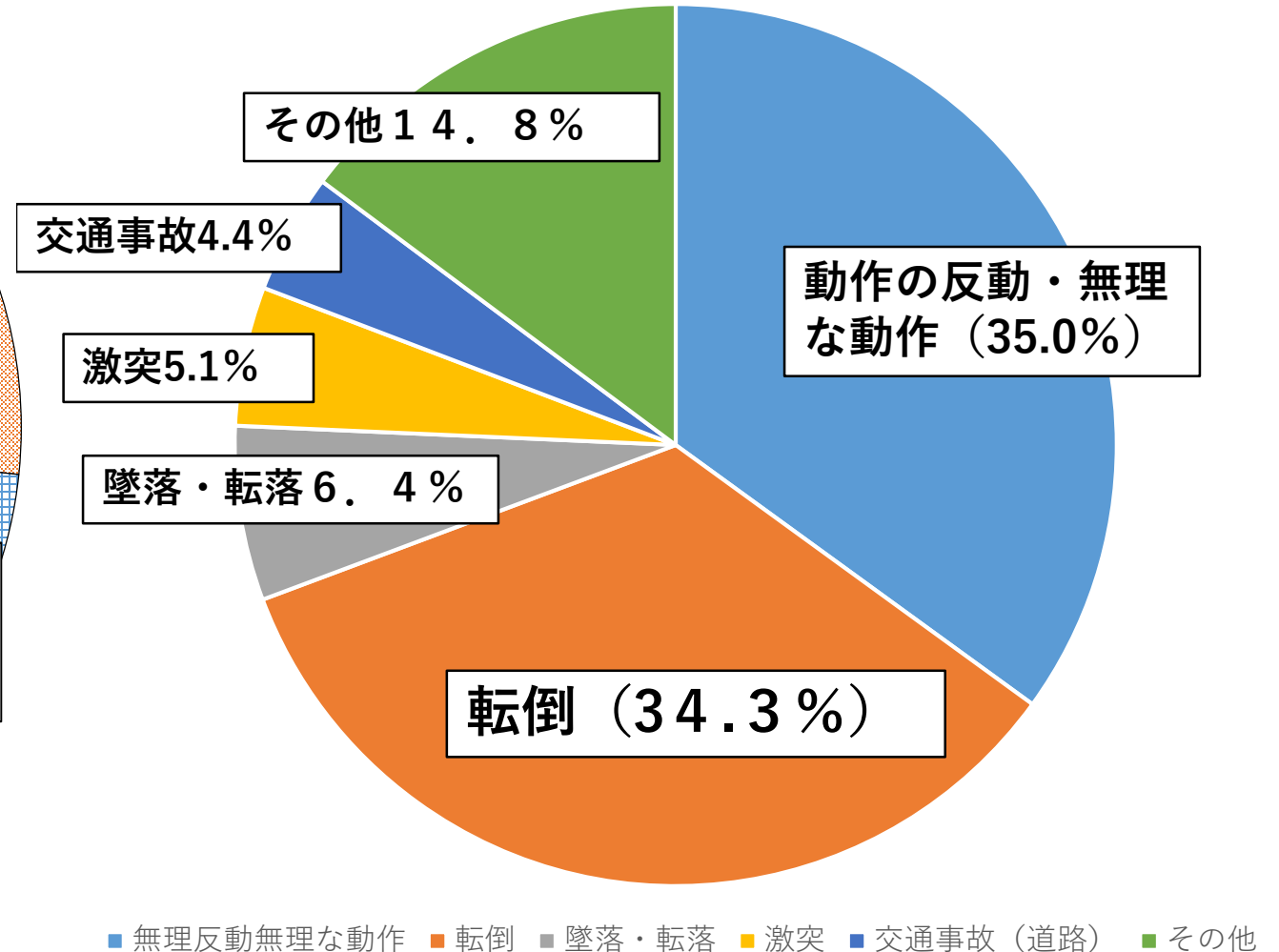
全産業

132,355人



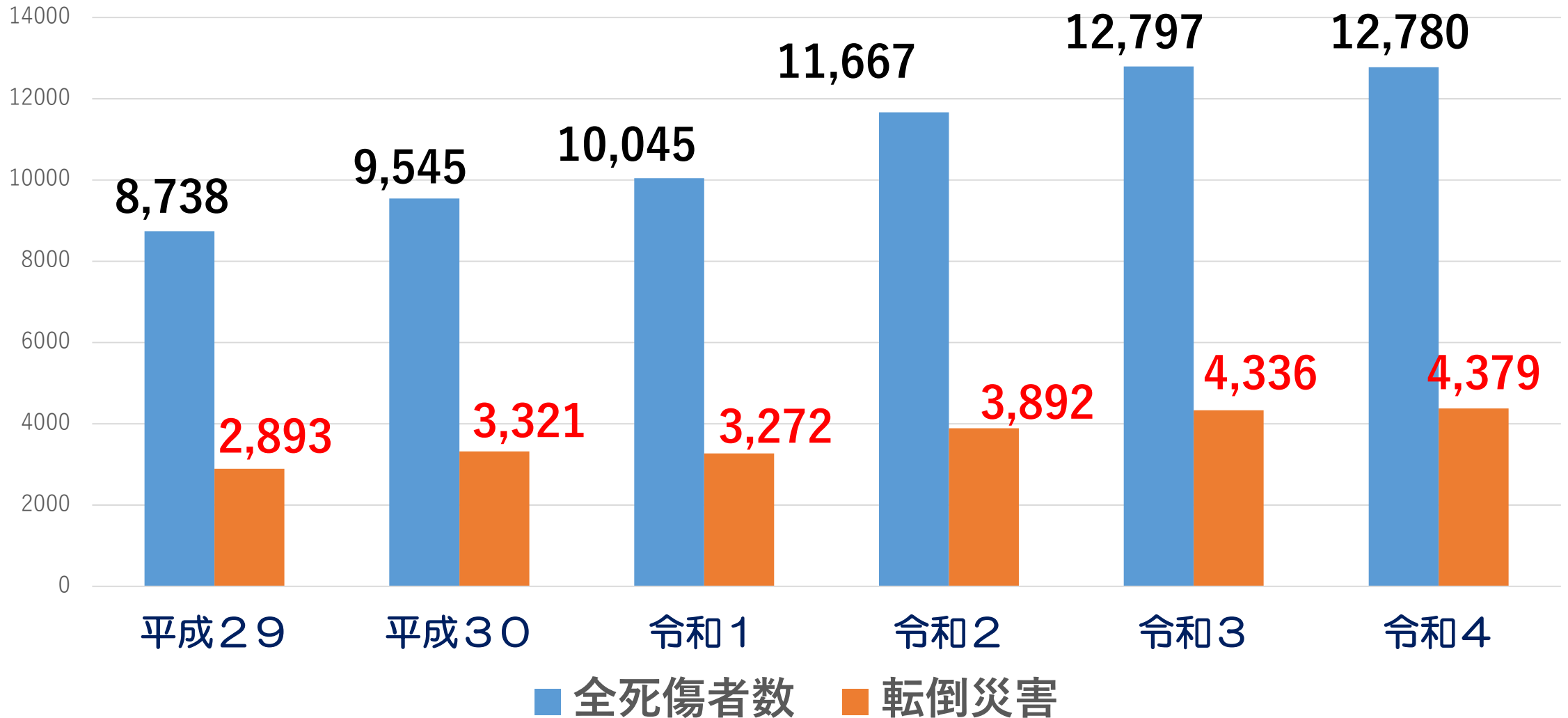
社会福祉施設

12,780人



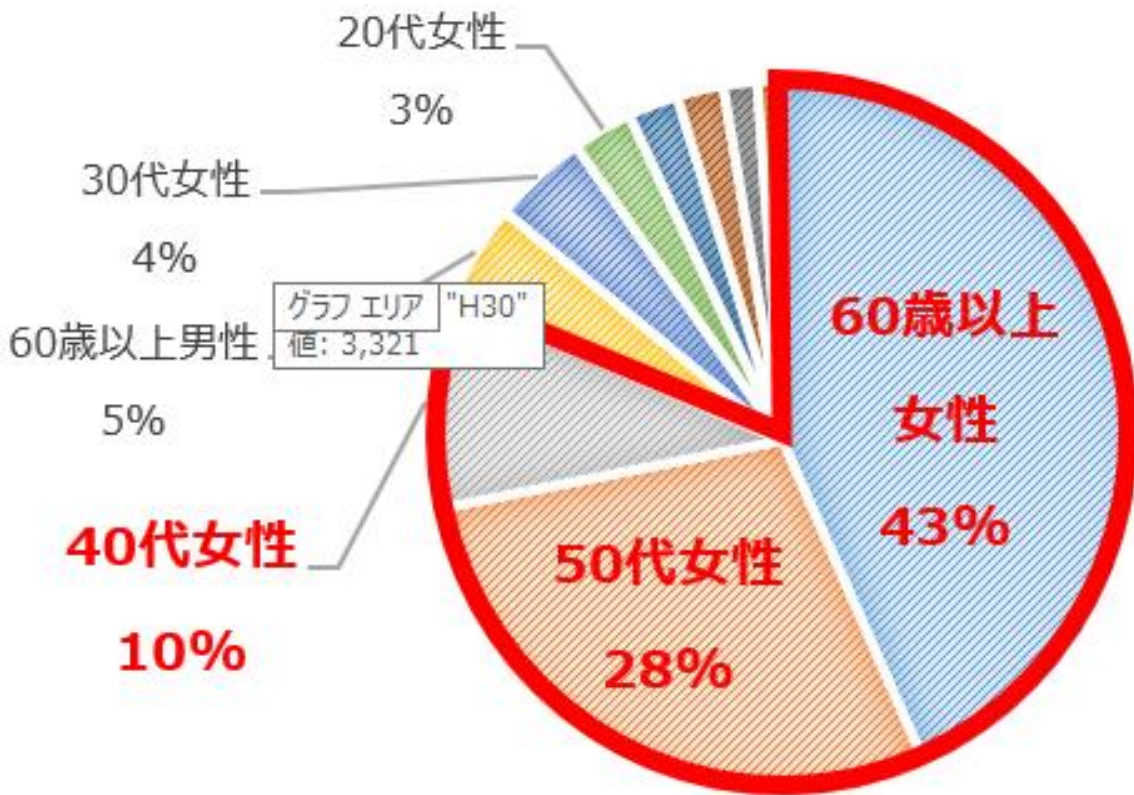
近年の社会福祉施設における労働災害発生件数について

社会福祉施設における休業4日以上死傷災害の推移



転倒災害の状況について

社会福祉施設における転倒災害被災者の性別・年齢別の割合



社会福祉施設における転倒災害の態様

- **骨折（約70%）**
- 打撲
- じん帯損傷
- 捻挫
- 外傷性くも膜下出血

社会福祉施設の転倒災害による平均休業日数（※労働者死傷病報告による休業見込日数）

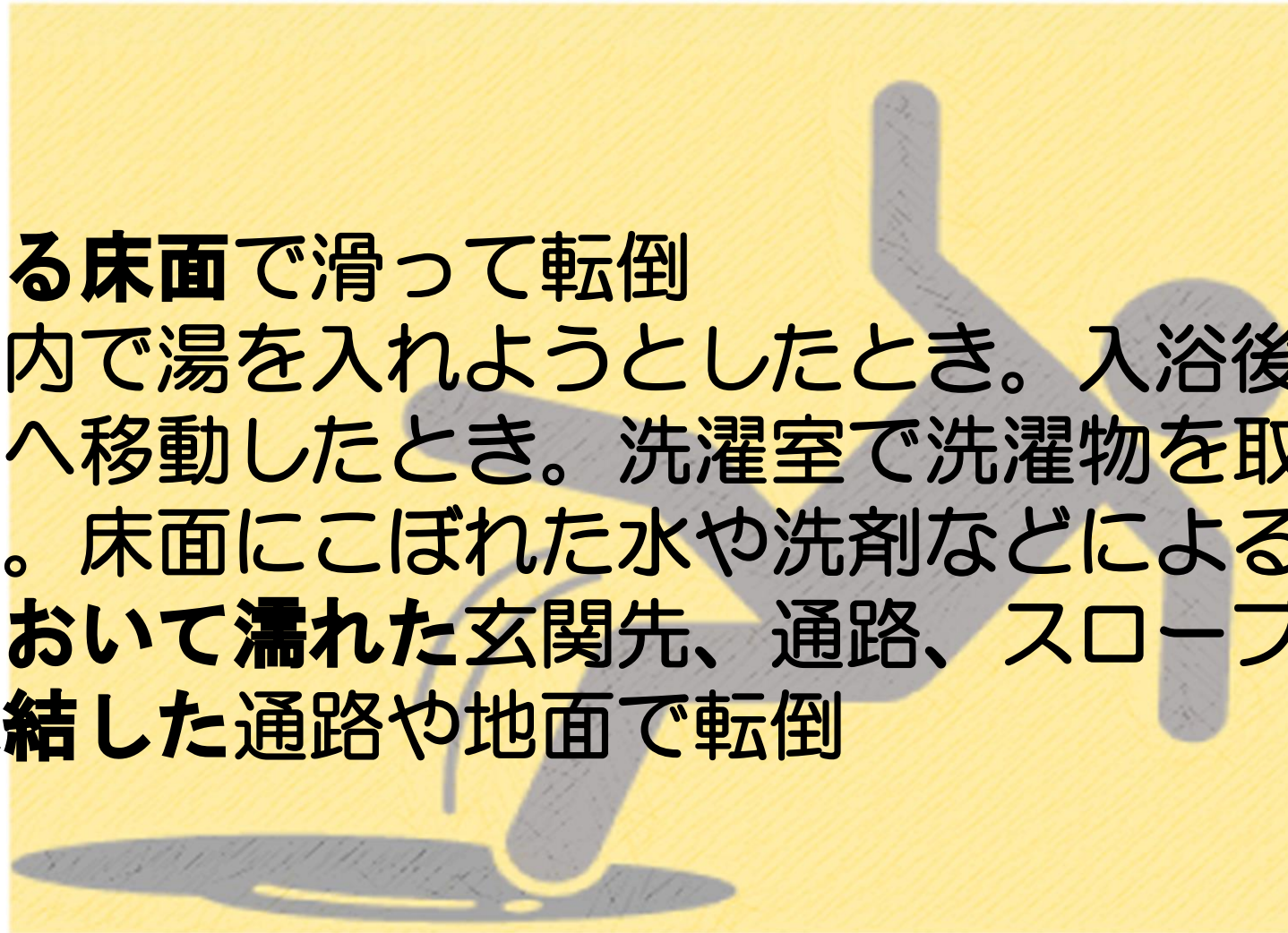
44日

転倒災害はどこで、どのような時に、どのような形で起こるのか？

滑り

事例

- **水分のある床面で滑って転倒**
(例：浴槽内で湯を入れようとしたとき。入浴後の着替え中に脱衣所へ移動したとき。洗濯室で洗濯物を取り込むなどの作業中。床面にこぼれた水や洗剤などによる転倒)
- **雨天時において濡れた玄関先、通路、スロープで転倒**
- **冬季に凍結した通路や地面で転倒**

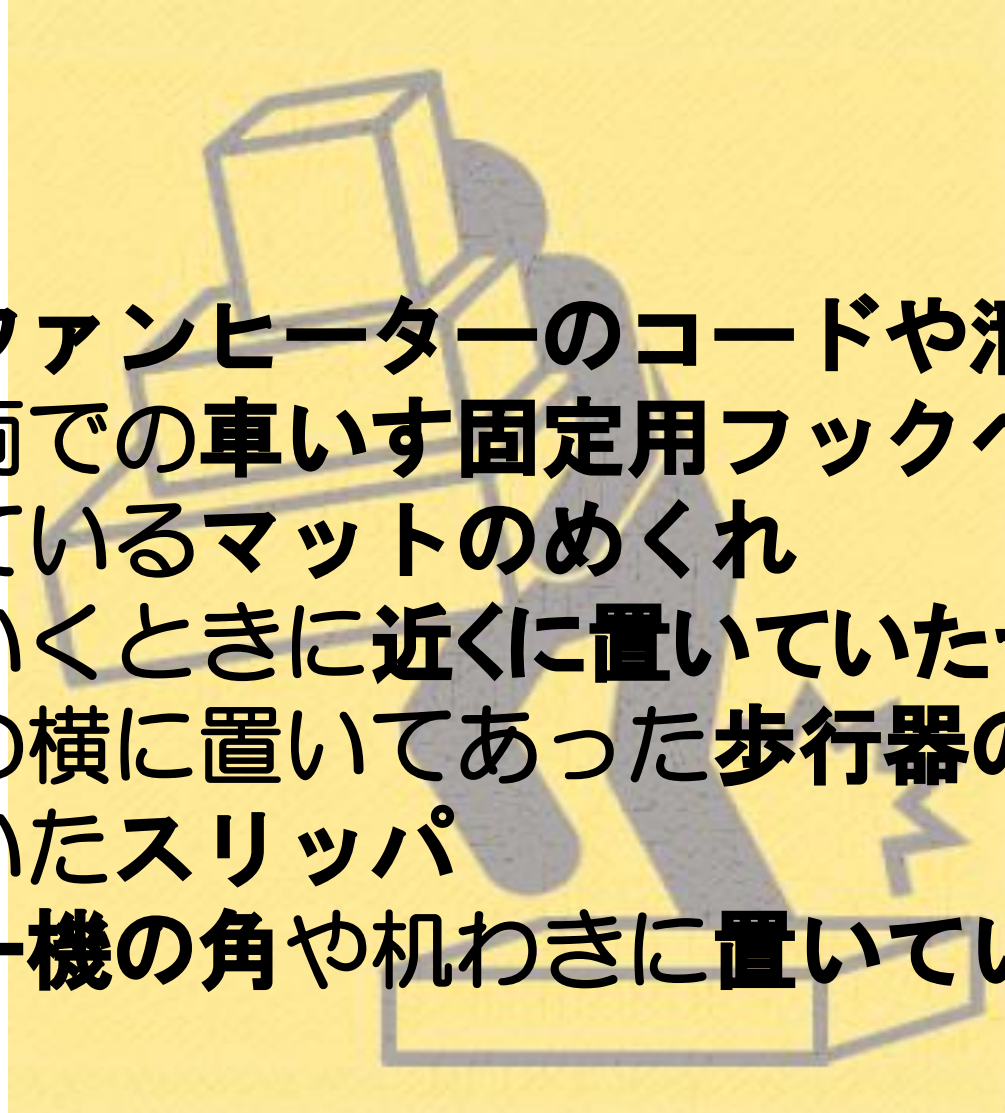


転倒災害はどこで、どのような時に、どのような形で起こるのか？

つまづき

事例

- 入浴介助後のファンヒーターのコードや清掃作業後のホース
- 車いす専用車両での車いす固定用フックベルト
- 居室等に敷いているマットのめくれ
- お茶を持っていくときに近くに置いていた台の脚、夕食片付け時にテーブルの横に置いてあった歩行器の脚
- 自分のはいていたスリッパ
- 事務室のコピー機の角や机わきに置いていた段ボール箱



転倒災害はどこで、どのような時に、どのような形で起こるのか？

一見、何も無い場所でも・・・

事例

- 利用者を追いかけようと走った時に転倒
- 利用者のコールに急いで対応しようとした時に転倒
- 早く着替えを済ませようと更衣室に走った時に転倒
- 忘れ物に気が付いて勢いよく振り向いた時に転倒
- 暗い階段を手すりを持たずに走っていた時に転倒
- 大きな荷物を持っていたために足元が見えず階段を踏み外す
- 加齢による身体機能の低下により通常の通路などにおいて足がもつれるなどして転倒

転倒による労働災害防止対策について

4 S 活動の取り組み

「4 Sとは」

「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」

のことをいいます。普段からのこれらの活動を積極的に行うことが重要です。

通路に物を放置しない。用具、介護用品などは決められた場所に整理する。床の汚れ（水分、油、粉末など）は確実に除去する。

など転倒災害の原因となる物の解消を図っていきましょう。4 S 活動は労働災害の防止だけではなく作業のしやすさの効果なども期待できます。

取り組み事例

整理整頓掃除によりつまずきの原因となる障害物を除く



使用しないベッドや物品は通路にはみ出さないように置いている



改善後

改善前



よく使う消耗品は種類別に取り出しやすいように収納位置を工夫している。

転倒による労働災害防止対策について

転倒危険個所の見える化

「見える化」は危険認識や作業上の注意喚起を関係者にわかりやすく伝えることができます。

KY活動やヒヤリ・ハット事例の収集

転倒危険場所にステッカーなどの標識の設置

施設内の危険マップの作成

などの取り組みにより、リスクが潜んでいる箇所の洗い出し、危険情報の共有をして転倒災害を未然に防ぎましょう

取り組み事例



危険箇所の標識の掲示



通行区分（進行方向）と階段の段数の表示



衝突防止のためのカーブミラー

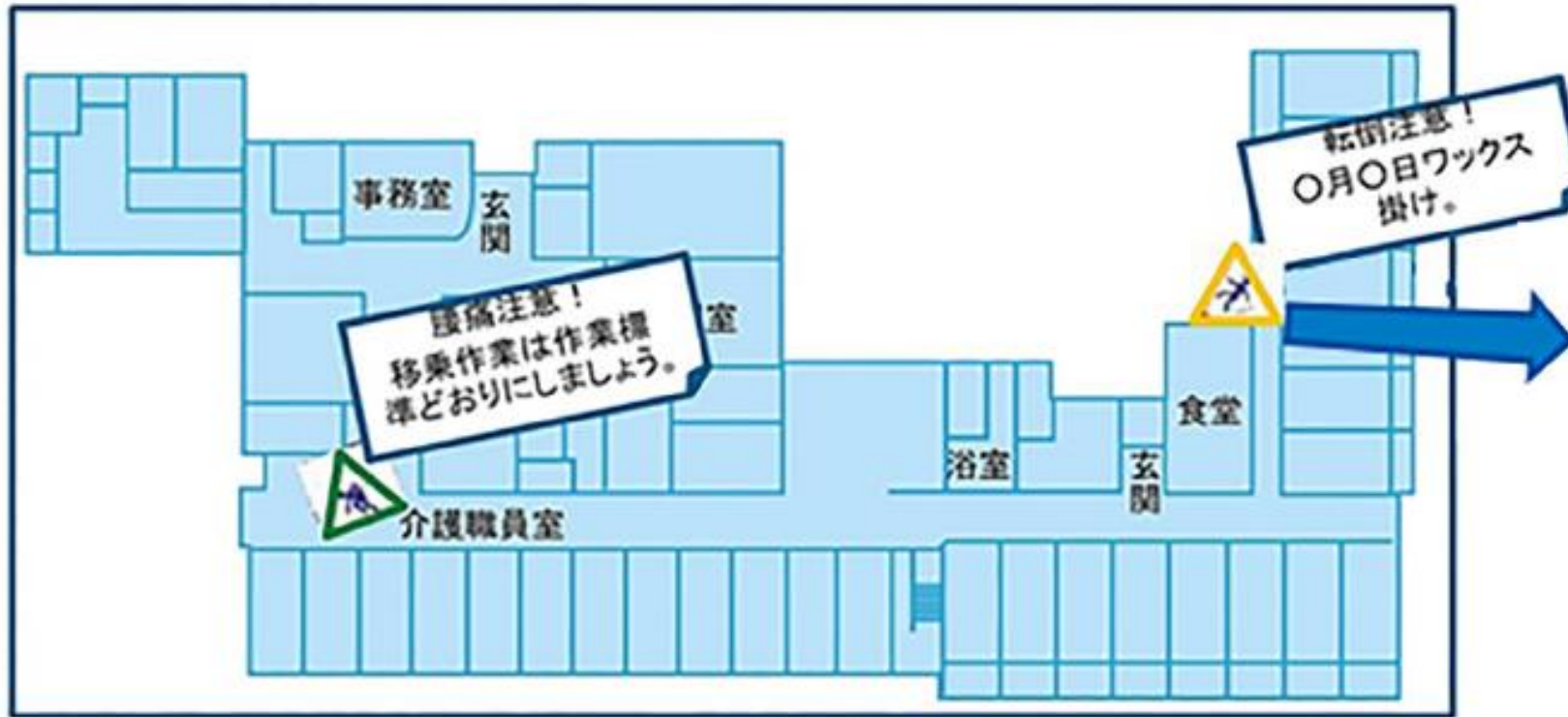


作業方法の表記（正しい方法も写真表記）

取り組み事例

危険マップの作成例

〈危険マップ及び危険マーカのイメージ〉



〈危険マーカの種類〉



転倒による労働災害防止対策について

床面の滑り、つまづきの原因を解消する

転倒災害につながる、滑りやつまづきの原因となる箇所や状況をひとつひとつ改善する必要があります。

床面の凹凸や段差を解消する(床面や通路の補修も含む)

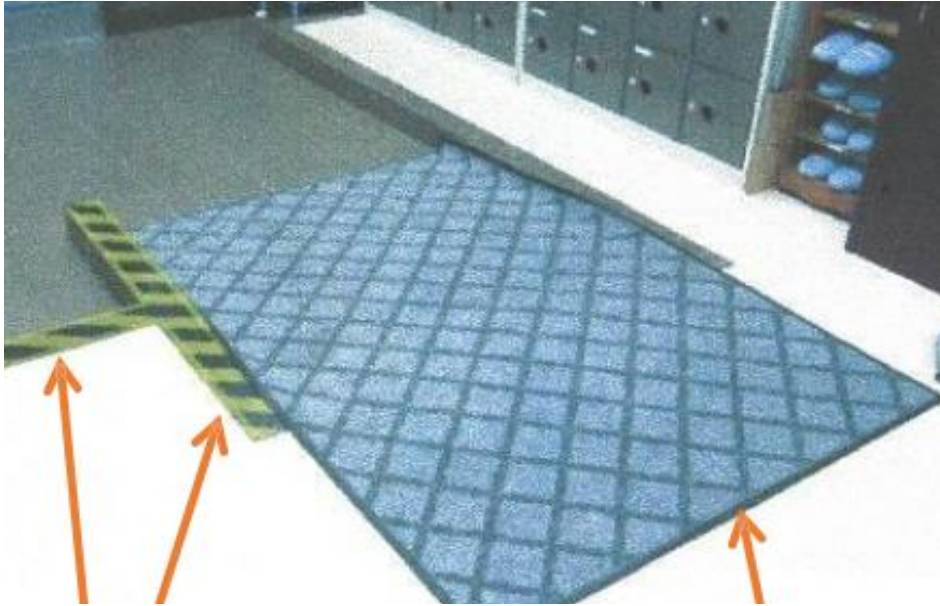
滑りにくい床材、床材塗装への変更の検討

階段や通路の照度確保

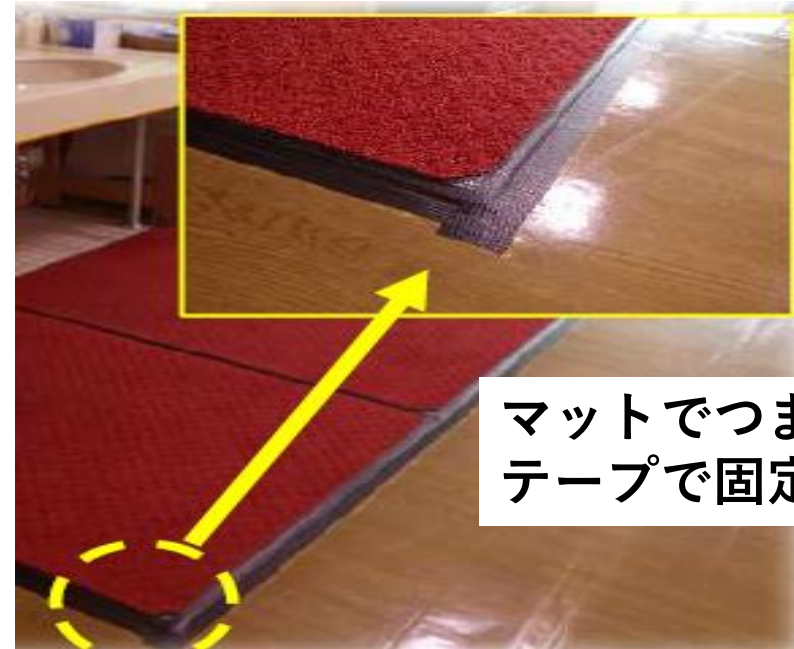
冬季の通路等への融雪剤の使用

などの取り組みにより、転倒災害の危険を解消しましょう。

取り組み事例



段差の表示と滑り止めマット



マットでつまづかないよう
テープで固定

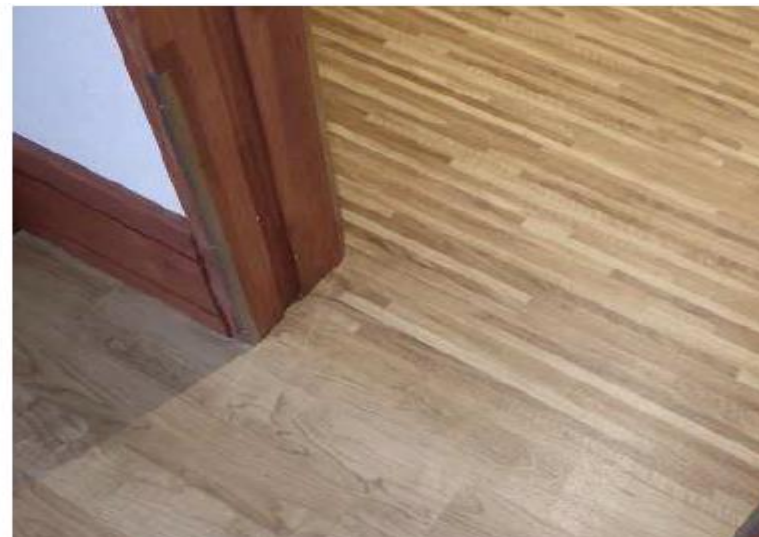
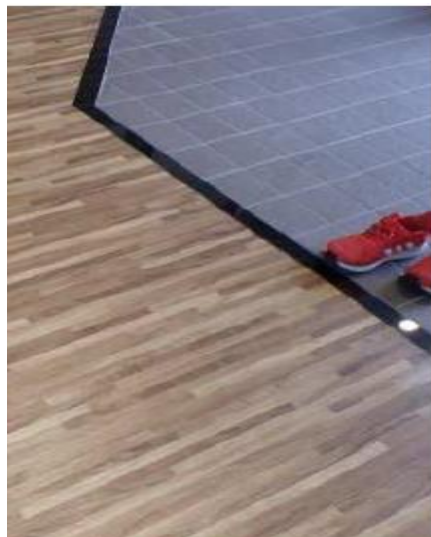


浴室、脱衣所での滑り止め
マットの導入

取り組み事例



滑りにくい床材の導入



出入口付近の段差をなくし、クッション性のある床材を導入



階段等の照度確保のため人感センサーライトを設置

転倒による労働災害防止対策について

作業に適した靴の選定

転倒防止のため以下を参考にして作業に適したものを選定する

<転倒しないための靴選びのポイント>

サイズ

小さすぎても大きすぎても踏ん張りがきかず、バランスを崩しやすくなります。

屈曲性

屈曲性が悪いとすり足になりやすく、つまずきの原因になります。

重量

重すぎると足が上がりにくくなり、つまずきの原因になります。

つま先部の高さ

つま先の高さが低いと、ちょっとした段差にもつまずきやすくなります。

靴底と床の耐滑性のバランス

作業場所や内容に合った耐滑性であることが重要です。例えば、滑りにくい床に滑りにくい靴底では摩擦が強くなりすぎてつまずきの原因になります。

高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドラインの概略

求められる取組

- 事業者** 高年齢労働者の就労状況や業務の内容等の実情に応じて、国や関係団体等による支援も活用して、**実施可能な労働災害防止対策に積極的に取り組むよう努める。**
- 労働者** 事業者が実施する労働災害防止対策の取組に協力するとともに、**自己の健康を守るための努力の重要性を理解し、自らの健康づくりに積極的に取り組むよう努める。**

事業者求められる取組

(1～5のうち法令で義務付けられているものに必ず取り組むことに加えて、実施可能なものに取り組む)

- 1 安全衛生管理体制の確立等
 - 経営トップ自らが安全衛生方針を表明し、担当する組織や担当者を指定
 - 高年齢労働者の身体機能の低下等による労働災害についてリスクアセスメントを実施
- 2 職場環境の改善
 - 照度の確保、段差の解消、補助機器の導入等、身体機能の低下を補う設備・装置の導入
 - 勤務形態等の工夫、ゆとりのある作業スピード等、高年齢労働者の特性を考慮した作業管理
- 3 高年齢労働者の健康や体力の状況の把握
 - 健康診断や体力チェックにより、事業者、高年齢労働者双方が当該高年齢労働者の健康や体力の状況を客観的に把握
- 4 高年齢労働者の健康や体力の状況に応じた対応
 - 健康診断や体力チェックにより把握した個々の高年齢労働者の健康や体力の状況に応じて、安全と健康の点で適合する業務をマッチング
 - 集団及び個々の高年齢労働者を対象に身体機能の維持向上に取り組む
- 5 安全衛生教育
 - 十分な時間をかけ、写真や図、映像等、文字以外の情報を活用した教育を実施
 - 再雇用や再就職等で経験のない業種や業務に従事する場合には、特に丁寧な教育訓練



労働者に求められる取り組み

- 自らの身体機能や健康状況を客観的に把握し、健康や体力の維持管理に努める
- 日頃から運動を取り入れ、食習慣の改善等により体力の維持と生活習慣の改善に取り組む

視聴覚教材の活用

厚生労働省ホームページ 転倒予防・腰痛予防の取組



『スペッチャダメよ！ムチャしちゃダメよ！ 転倒予防 腰痛予防』 キャンペーン実施中！

西川きよしがリーダーとなり、マヂカルラブリーやアインシュタインなどの人気芸人が、転倒・腰痛予防の方法を分かりやすく紹介しています。
(動画4種)



社会福祉施設向け転倒・視聴覚教材

災害事例から基本姿勢など具体的な災害防止ポイントが学べるため、危険予知力の向上につながる内容です。また、「腰痛これだけ体操」も紹介しています。
(約9分)



外国人労働者向け安全衛生教育教材／介護業

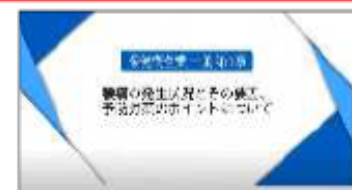
漫画を使った外国人労働者向けとなっていますが、基本的な内容を網羅しており日本人の雇入時教育でも十分に活用できる内容です。
(約14分)



毎日3分でできる転びにくい体をつくる職場エクササイズ

転倒・腰痛災害予防のため筋力・バランス・柔軟性を高める体操法を紹介しています。始業前に習慣化することで安全意識の高揚にもつながります。
(約3分)

厚生労働省 youtube チャンネル



保健衛生業の作業員向けに労働衛生コンサルタントが腰痛予防対策を説明する動画です。以下、第1章～第6章までの構成となっていますが、関心のある章だけ視聴しても理解できるよう構成しています。

- 第1章 腰痛の発生状況とその要因、予防対策のポイントについて(約11分)
- 第2章 作業による腰への負担と作業別の適切な作業方法について(約22分)
- 第3章 労働者の身体的負担軽減を図る福祉機器の使用法(約7分)
- 第4章 リスクアセスメントについて(約10分)
- 第5章 作業標準の必要性とその作り方(約4分)

※同シリーズの「管理者向け」動画はこちらから → → →



毎日の点検などにより、転倒災害の撲滅を目指しましょう

チェック項目		<input type="checkbox"/>
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていませんか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

